

# かめだより

発行：医療法人鉄蕉会 亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室  
発行責任者：亀田信介 編集責任者：唐鎌房子

〒296-8602 千葉県鴨川市東町929

TEL：04-7099-1261(内線7156)

明けましておめでとうございます。  
本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

## index

- P2 … 看護部 認定看護師のご紹介  
地域医療連携と亀田スマートホスピタル構想  
～ ICTの利活用が地域医療を変える～
- P3 … 第10回地域医療連携交流会 実施報告
- P4 … 地域医療機関さまより
- P5 … 当院診療科より
- P6 … 高次脳機能障害支援普及事業って何?
- P7 … スタッフひろば  
マイブーム
- P8 … トピックス 勉強会・研修会スケジュール

# 看護部 認定看護師のご紹介



## 「感染管理認定看護師の役割」

感染管理認定看護師 古谷直子

感染管理認定看護師(CNIC：Certified Nurse in Infection Control)とは、医療を受けたことにより獲得してしまうかもしれない感染症の発生を、予防する仕事です。昔は、このような感染症を院内感染と表現していましたが、今は、医療関連感染といい、病院や長期療養施設、外来、在宅など様々な医療やケアを提供する場所で発生する、感染症が対象となります。

CNICは、2000年から教育が始まり、2019年7月現在、全国で2,903人が登録されています。亀田総合病院では、専従の2人の看護師が『地域感染症疫学・予防センター』という部署で仕事をしています。

CNICは、ベッドサイドで患者さまのケアをするのではなく、医療施設において医療関連感染が起こらないような仕組みをつくり、それを評価・改善するための仕事をしています。具体的には、感染予防のマニュアルを作成し定期的に見直し、サーベイランスを行い医療施設における感染のリスクを『見える化』し施設内で共有する、感染予防の教育を行う、医療従事者の安全を確保するためのワクチン接種や安全器材の導入や推進などを実践しています。特に、サーベイランスは、我々の業務の大半を占めています。

サーベイランスなんて、横文字をみると避けたい気持ちはありますが、要するに、我々の医療施設の中で、

医療関連感染を起こしている人がどの位いるのか数える仕事です。例えば、高血圧の患者さまが毎日血圧を測定し、記録し、降圧剤の量や種類を調整するように、医療関連感染を起こしている人の数を測定し、記録し、対策について検討するというような仕事になります。測定するための、お作法(ルール)はいろいろありますが、血管内カテーテルや尿道留置カテーテルを挿入している人で、感染を起こしている人が何人いるのか、手術の後に手術部位の感染を起こしている人が何人いるのか、という数を確認し評価します。これらの結果を、臨床現場の方々と共有し、現在の対策を継続するのか改善するのかといった対策の見直しを行います。医療を受けた人達を、集団で評価するような取り組みは、医療施設における質の評価にもなっています。

また、感染予防は、医療機関における様々な仕事の一部分に関わることが多くあります。たとえば、施設管理課の人と建築や改修工事における感染リスクを下げるための対策を検討したり、清掃員の方と清掃の手順や清掃カートにおけるリスクを評価し、管理方法について検討するなど、医療施設が様々な人の力で成り立っていることを知ると同時に、感染のリスクは色々なところに潜んでいることを学びながら、自施設に必要な対策を検討しています。

このように、CNICは色々な場所に潜む感染のリスクを評価し共有することで、リスクを『見える化』し、感染予防対策の評価・改善をしています。

## 地域医療連携と亀田スマートホスピタル構想

～ ICTの利活用が地域医療を変える ～

### シリーズ-4：亀田スマートホスピタル構想の目指すところ

医療法人鉄蕉会 情報管理本部 本部長 中後 淳

シリーズ-3では国全体で医療情報連携を進める「千年カルテプロジェクト」への参加について紹介しました。シリーズ最終回となる今回は「亀田スマートホスピタル構想(スマホ構想)」について紹介します。スマホ構想は令和元年10月にスタートした亀田グループの新しい情報戦略構想です。

世の中にスマートフォン(スマホ)が普及するきっかけとなったのは今から12年前の「iPhone」からと言われてい

ます。日本ではその翌年夏から販売されるようになったので約11年の歴史です。たった11年で、電車の中の光景はガラッとかわりました。スマホでできることも急激に増え、音楽や動画・ゲームはもちろん、お店での支払や、若い世代では大学の論文作成もスマホで行うと聞きました。スマホが手元にないと落ち着かない依存症の人も増え、12月からは運転中にスマホを操作する「ながら運転」の罰則が強化されました。便利になった反面、大きな社会問題に



# 第10回地域医療連携交流会

## 実施報告

地域医療連携室  
室長 蔵本 浩一

2019年10月9日(水)、亀田医療福祉専門学校2階大講堂にて、10回目となる地域医療連携交流会が開催されました。インフルエンザシーズンの開催を避けるべく、今年度より秋口に日程を変更して開催となりましたが、今秋は度重なる大型台風によって当地域全体が甚大な被害を受けました。当日は、各医療機関が通常診療に加えて台風被害への対応でお忙しい中、院外・院内より115名にご参集をいただきました。



今年度のテーマは「医療情報連携」とし、携りとし、3名の演者にご講演をいただきました。演題1では、当院情報管理本部の中後淳本部長から、今年5月に

行われた当院の電子カルテ移行に関する、当院が考える「働き方改革」と、今後の展望(スマートホスピタル構想)についてお話をいただきました。

演題2では、インブレース株式会社ユーザサポート本部部長の



見藤大氏より、「医療者と患者さま・家族を繋ぐプラットフォームとして『Medical Care Station』についてお話いただきました。お話の中で、実際の診療で同ツールを利用している」A秋田厚生連由利組合総合病院の谷合久憲先生より、中継で現場での取り組みについてお話を伺いました。

演題3では、当院災害対策調整室の小倉健一氏より、今秋の台風15号・



19号による災害対応に関して、事前準備と災害発生後に行った対応、あらたに得られた教訓についてお話をいただきました。終了後のアンケートでは、回答者78名のうち、65名(83.3%)の方が「良かった」と回答されていました。どの演者のお話に対しても「とても興味深い内容だった」「もっと聞きたかった」という声が多数寄せられました。

第2部の懇親会は、Kタワー13階のホライゾンホールに場所を移しての開催となりました。当院の亀田俊明副院長より乾杯のご挨拶をいただき、立食形式で施設



間の交流を深める良き機会となりました。ご参加いただいた皆様、開催にあたってご尽力いただきました皆さまへの皆様にご心より御礼申し上げます。



医療サービスの提供や業務を行うことが“できる”医療機関です。ポイントはこの“できる”というところです。予約や予約の確認・受付や待ち時間のお知らせ・会計や、お薬手帳・母子手帳・血圧の管理などさまざまなことがスマホからできればスマホを使いこなせる人にはとても便利です。一方、スマホを使いこなせる人とそうでない人の格差も確実に生まれます。亀田グループはスマホで“できる”医療機関を目指しますが、スマホを使わない皆さまへのサービスが低下しないことも重要と位置付けています。これから10年ほどで更に技術は進歩し大きく社会の構造が変わります。患者さまの利便性を損なうことなく、病院の仕組みを根本から変えるのは至難の業ですが、亀田グループらしく挑戦し続けていきたいと思っております。

もなっています。しかし、スマホが日常生活に入り込んでくる流れは全世界でますます加速していきそうです。

この流れは医療業界も同じです。海外では予約から支払いまですべての手続きをスマホで行うことが当たり前になってきています。日本ではそこまで極端な変化はありませんが、病院での活用も徐々に進められ、予約や支払いができるクリニックや、待ち時間をスマホでお知らせする仕組みを取り入れた病院も出てきました。おそらく東京オリンピックを境にほんの数年で医療業界の環境も大きく変わってくると思います。

このような背景があり亀田グループとしても将来を見据えてスマホを活用したスマートな病院・クリニックを実現するための新しい情報戦略構想「スマホ構想」を策定しました。「スマホ構想」が目指すのは、スマホですべての

# 地域医療機関さまより



## 医療法人社団水明会 原診療所

院長 原 太郎



## 家庭医と消化器専門医の診療所

### ① 当院の成り立ち 地域を支える家庭医として

当院は昭和50年1月、旧富浦町に父が開院し、以来地域の皆様に支えられて45年活動してまいりました。診療科は一般内科、消化器内科、内視鏡科を標榜しており生活習慣病から腰痛などの整形疾患、がん検診まで初期診療は幅広く行っております。

84歳の父(副院長)は現在も、地域医療を支える家庭医として患者さんの家庭環境、人柄、既往症などを熟知し、疾患のみならずその背景にある環境を重視し悩みに寄り添うように診療しております。開院当初は40代の働き盛りであった患者さんも今は80代となり様々な疾患をかかえながら診療所に通っている方も沢山います。父の築いた診療所は医療の枠を超え、気軽な悩みの相談

などで気軽に利用できる場であり、立ち寄ってくれるような場所となっております。

### ② 新しい時代に専門性を活かす診療所としての機能

新しい時代に専門性を活かす診療所として、平成27年に診療所を増築改装し、最新の内視鏡、超音波診断装置を導入し、平成28年4月から父と2人で診療を行っております。長年勤務していた千葉県がんセンター(消化器内科、内視鏡科)での経験を活かし、外来診療の合間に上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、腹部エコーなど専門性の高い検査と治療を行っております。

南房総地域は高齢者が多いこともあり、当院でのがん発見率は高く、2019年度は胃がん25例(早期がん24例、進行がん1例)、大腸がん10例(早期がん5例、進行がん5例)、肝胆道膵臓がん8例、肺がん4例など消化器系のがんを中心に多数のがん診断を行っております。特に胃がんの発見率は非常に高く、2019年度上部消化管内視鏡検査850件中25人(2.9%)と全国平均の3倍以上(千葉市内視鏡検診の胃がん発見率0.5%)の胃がん診断の実績があります。またがんにかかった方や家族の相談にも積極的に携わり、ご本人や家族にとってよりよい医療、治療を受けられるようにアドバイスも行っています。

一方、一般内科診療ではかかりつけ医として感冒などのcommon diseaseの診察をはじめ、糖尿病や高血圧などの生活習慣病の管理を行っております。特に生活習慣病の管理には頸動脈エコーを用いて動脈硬化を客観的に評価し、適切な治療につなげております。救急疾患では亀田総合病院、安房地域医療センターのご協力のもと迅速な対応を行い、その後の診断、治療経過を常に診療へfeed backさせ日々の診療レベルの向上に努めております。

今後も来院される方の健康を第一に考え、専門性を活かしたより高い医療サービスを提供することで、地域の皆様に信頼される診療所でありつづけたしたいと思います。





# 当院診療科より

腫瘍内科

腫瘍内科部長 大山 優



腫瘍内科は2006年10月に私大山優が亀田総合病院に赴任してから設立されました。日本での歴史は浅い比較的新しい診療科です。がんは胃がん、肺がん、大腸がんなどの固形がんと白血病やリンパ腫などの血液がんの2種類に大別されます。血液がんは昔から日本全国どこでも血液内科で診療をしていますが、固形がんは手術で治療することから一般的に外科医が診療してきました。現在でも日本全国で主に外科医が診療している状況に変わりはありません。しかし、米国では、外科的治療以外の診療(主に抗がん剤その他の治療)は内科の専門分野の一つである腫瘍内科(Medical Oncology)が行っています。これは分業化・専門化が日本より進んでいるためです。亀田総合病院では腫瘍内科、内科系各科、外科系各科、放射線科、臨床病理科が緊密に連携し米国のようなハイレベルのがん診療を目指しています。

抗がん剤などの治療薬は過去20~30年間でめざましい進歩を遂げ、固形がんの治療は大きく変貌しました。薬の種類が増え、効果が高まり、手術はできなくても薬で治療できる疾患が増えたのです。例えばかつては、進行した膵臓がん、胆嚢がん、肝臓がんなどの手術できない症例は緩和ケアが治療の中心でした。今は、全身状態良好な症例では抗がん剤治療の対象となります。そして治療が効くと症状緩和と延命効果があります。また肺がん、胃がん、大腸がん、乳がんなど頻度の高いがんでは、過去20年の間にめざましく薬物療法が

発展し、平均の生存期間がかなり延長されました。また切除できなかった症例も薬物療法で縮小し、切除可能になることも増えて来ました。そして2015年に承認されたノーベル賞受賞につながった薬である、ニボルマブ、ペンブロリズマブなどの免疫チェックポイント阻害薬は、一部の著効する症例では、予後不良である進行肺がんや、悪性黒色腫(ほくろのがん)など複数のがんで、長期予後をもたらすことができるようになりました。また今年からがんゲノム医療が保険診療としてスタートし、治療抵抗性になった症例にも、さらなる治療薬が発見されるケースも出てきました。

がん医療の進歩はとどまるところがありませんが、いまだに基本の診療パターンは同じです。患者さまの状態を正確に把握し、最適な治療方針を立てることで。また患者さま・家族の思いや、社会状況にも配慮して丁寧に診療を進めることです。ここ最近では患者さまの高齢化、独居化が進み、抗がん剤治療が施行しにくい症例も増えて来ています。また新薬は極めて高額で、患者さまと健康保険組合、国費にかかる費用もうなぎ登りなのも医師として気になります。高齢患者さまに化学療法を行う場合、患者さまの体にかかる負担やリスクのみならず、経済的負担、家族への社会的負担(送り迎えや見守りなど)を考慮に入れなくてはなりません。抗がん剤治療など、がんの積極的治療は全て高リスクの治療です。うまくいって効果が得られる症例もある反面、副作用などでかえって状態の悪化を来してしまうこともあります。これらを全て考慮に入れて個々の患者さまに最適な治療を行ってゆくのが腫瘍内科医です。

命に直結するがんという病気を抱えた患者さまと家族の思いを受け止め、患者さまと家族の希望に添った、かつ患者さまの現在及び未来の状況を考慮に入れた上で、医学的・社会的に可能な限りの医療を行うには、私達の努力に加え、病院の各スタッフ、そしてなにより患者さま本人と家族の理解と協力が不可欠です。また高齢・障害・独居などで遠方の亀田まで通院が困難な状況の患者さまでは、地域の医療機関の協力や、複雑ながん治療の流れに関する情報共有も大切だと思います。

亀田総合病院腫瘍内科では、患者さま目線に立った高品質の医療を提供できるように努力しています。私大山優を含め、当科の齋藤亜由美、池成基、宮地康僚、安次嶺宏哉、齋藤駿河、福田美佐緒、小林哲徳全員で日夜頑張っています。いつでもご相談をお待ちしています。

facebook <https://www.facebook.com/KamedaOncology/>

# 高次脳機能障害 支援普及事業って何？

## 第4回

### 普及・啓発活動について

ソーシャルワーカー 平岡 恵

第4回目は高次脳機能障害支援普及事業で実際に行っている活動についてご紹介します。

#### 【高次脳機能障害支援普及事業の役割】

各拠点機関には、支援コーディネーターが配置されており、個人だけでなく地域に向けた普及・啓発活動も行っています。高次脳機能障害は目に見えないため、地域で生活していく中で本人だけでなく家族も疲弊しています。地域の方々の理解と協力がなければ、生活自体が困難となり孤立します。普及・啓発活動では、周囲の理解を得る力添えとなるよう、地域住民や支援者に向けて毎年講演会や研修会を行っています。

#### 【実際の活動について】

普及・啓発活動には2種類あります。

定期的な活動として、南房総高次脳機能障害家族と支援者の会へ毎月参加し、当事者と家族、地域の支援者たちと進捗状況や情報交換を行っています。参加者の中には、自分が入院中に関わった方もいて、地域に戻りどんな暮らしをしているのか、何に困っているのか知り、考える良い機会となっています。

年度ごとの企画として、今年度は『地域住民という支援者』に目を向けて、講演会や研修会を企画しました。

第1回は「子どもの高次脳機能障害ってなあに？」と題して、子どもの高次脳機能障害家族会『ハイリハキッズ』から2名お招きし、当事者家族から、きょうだいの立場からそれぞれお話しいただきました。

成長発達の途中で発症するため、大人とは違う障害の苦勞があることを知りました。

第2回は亀田リハビリテーション病院と千葉リハビリテーションセンターから講師を招き、安房地域のケアマネジャーに向けて「高次脳機能障害の生活を支えるマネジメント～生活版ジョブコーチの手法を学びながら～」を開催しました。支援者が地域に出向き、介助でなく間接的な自立への見守り型支援方法を講義とグループワークで学びました。

第3回は高次脳機能障害を題材にした映画上映会を3月1日(日)13時から鋸南町中央公民館にて開催します。ハリウッド映画を日本でリメイクした「50回目のファーストキス」です。映画上映の前に、亀田リハビリテーション病院院長 井合先生のミニ講義もあります。皆様のご参加、お待ちしております。

#### 【来年度の展望】

近年の傾向として若年発症後、復職や就労に難渋するケースも増えてきました。来年度は地域住民の生活を支える介護福祉に携わる専門職に向けた研修会開催と、高次脳機能障害者の復職・就労支援の確立を目指します。



# スタッフひろば

地域医療連携室  
メンバーから

## 今回のご紹介内容

- ・氏名
- ①部署 / 職種
- ②好きなおせち
- ③自分を動物に例え  
ると



### 蔵本 浩一

- ①地域医療連携室 室長  
診療部 疼痛・緩和ケア科 医師
- ②おせち全般(しいて言うなら  
松前漬)
- ③コアラの中のコアラ(臆病な  
までの慎重派 by 動物占い)



### 大川 薫

- ①診療部 在宅診療科,  
地域医療支援部 医師
- ②かまぼこ
- ③オランウータン



### 草薙 洋

- ①診療部 消化器外科  
医師
- ②ハム
- ③さる



### 丸山 祝子

- ①看護管理部  
助産師
- ②伊達巻き
- ③つひじ



### 杉田 登子

- ①地域医療連携室  
看護師
- ②数の子
- ③カモノハシ



### 石井 俊一

- ①看護管理部  
看護師
- ②数の子
- ③馬(顔が長い)



### 打野 弘子

- ①総合相談室  
看護師
- ②あわび煮
- ③象



### 吉野 有美子

- ①総合相談室  
看護師
- ②錦玉子
- ③プレーリードッグ



### 安室 修

- ①薬剤部  
薬剤師
- ②栗きんとん
- ③ナマケモノ



### 鎌田 喜子

- ①総合相談室 MSW
- ②甘すぎない手作り  
栗きんとん
- ③ねこ



### 児玉 照光

- ①総合相談室  
MSW
- ②かまぼこ
- ③パンダ



### 新田 静江

- ①亀田医療大学  
教員(看護師)
- ②ごぼうの八幡巻き
- ③農耕馬



### 中村 雅代

- ①地域医療連携室  
事務
- ②伊達巻き
- ③さる



### 林 裕子

- ①地域医療連携室  
事務
- ②母のつくる  
栗きんとん・黒まめ
- ③カンガルー



### 黒川 亜純

- ①地域医療連携室  
事務
- ②栗きんとん
- ③くらげ



### 松井 陽

- ①地域医療連携室  
事務
- ②紅白なます
- ③コアラ(寝ようと  
思えばずっと  
寝られるから)



### 生稲 秋穂

- ①地域医療連携室  
事務
- ②かまぼこ
- ③ねこ



### 大橋 洋子

- ①地域医療連携室  
事務
- ②伊達巻き
- ③ウシ(いつも  
「もー!」と言って  
いるところ)



### 唐鎌 房子

- ①地域医療支援部  
事務
- ②栗きんとん
- ③あり  
(縁の下の力持ち)

## 亀田総合病院スタッフの マイブーム



### 「馬鹿になってしまった!？」

ロードバイクを楽しむのに鴨川はうってつけだ。海岸沿いは穏やかな道がどこまでも続く。海に背を向けて走ると登りごたえのある坂に出会う。そして、何よりも信号機が少ない!

今思い起こすと自転車との出会いは結構早い。幼い頃に父親からコマ付(補助輪付)自転車を買ってもらった。補助輪はすぐにはずれ、2輪走行する頃には行動範囲も一気に広がる。小学生の頃にはサーカスの曲芸まがいの乗り方をするまでになっていた。

中学生になり知る人ぞ知る? 自転車「ロードマン」を買ってもらおう。それまで電車やバスでしか行けないと思っていた所に自転車で行けたことに感動を覚えた。大阪の実家から、万

博記念公園、法隆寺、奈良公園など往復50~80kmの距離を週末に走っていた。

時は一気に数十年が流れ、自転車のマイブームが再び起きたのは今から10年ほど前。前の職場で働いていた時のことだ。当時普段使っていた自転車が古くなったのを期に、妻が誕生日プレゼントとしてクロスバイクを買ってくれた。想定外に、買ってもらったクロスバイクは近場を乗るにはいろいろと面倒だった。そこで思いついたのが自宅と職場の往復42kmの通勤に使ってみようというもの。意外にも気が付けば3年間ほど自転車通勤をしていた。内臓脂肪もすっかり消え去った。

鴨川に移ってからロードバイクにすっかりはまっている。かつて「坂なんか自転車で登るなんて馬鹿じゃない!」と思っていた自分が、今その馬鹿になっている。

N.S.



## 勉強会・研修会スケジュール

今年度の勉強会・研修会のご案内及びご報告です。

## 1. 2019年度がん看護基礎コース研修

会場：亀田総合病院 B棟7階看護研修室

対象：2年目以上でがん看護に興味のある看護師

時間：17:45～19:00

※第1回～第6回は終了しました

【第8回】2020年1月21日(火) 緩和ケア

【第9回】2020年2月18日(火) オンコロジック・エマー  
ジェンシー

【第10回】2020年3月17日(火) グループワーク

※【第7回】スピリチュアルケアの日程が1月28日(火)に変更となりました

## 2. 2019年度がん看護実践コース研修

会場：亀田総合病院 B棟7階看護研修室

対象：がん看護経験年数2年目以上で、がん看護に興味のある看護師

時間：17:45～19:00

※第1回～第6回は終了しました

【第7回】2020年1月7日(火) 多職種とのコミュニケーション

【第8回】2020年2月4日(火) グループワークⅠ

【第9回】2020年3月3日(火) グループワークⅡ

## 3. マインドフルネス勉強会

会場：亀田総合病院 Kタワー13階ホライゾンホール

講師：健康科学大学健康科学部 福祉心理学科 教授

井上ウィマラ先生

対象：医師・看護師・コメディカル等

\*医療機関にお勤めの方であればご参加いただけます

※第1回・第2回は終了しました

【第3回】2020年1月19日(日)9:00～16:00

被災者でもある医療スタッフの心の持ちようについて

## 4. 2019年度夷隅地域勉強会プログラム

会場：塩田病院 B棟6階研修室

対象：経験年数3年目以上でテーマに興味のある方

※第1回・第2回は終了しました

【第3回】2020年1月24日(金)17:45～18:45

看護の力で防ぐ誤嚥性肺炎

## 5. がん化学療法講演会

会場：亀田総合病院 Kタワー13階ホライゾンホール

日時：2020年1月14日(火)18:00～19:00

講師：がん研究会有明病院 がん相談支援センター

がん看護専門看護師 花出正美先生

演題：治療期におけるがんサバイバーシップ支援

## 6. がんゲノム医療講演会

会場：亀田総合病院 Kタワー13階ホライゾンホール

日時：2020年1月22日(水)18:00～19:00

講師：東京医科歯科大学医学部附属病院

認定遺伝カウンセラー 高嶺恵理子先生

演題：がんゲノム医療と二次的所見への対応

## 7. がん患者さまのリハビリテーション講演会

会場：亀田総合病院 Kタワー13階ホライゾンホール

日時：2020年1月31日(金)18:00～19:00

講師：順天堂大学

整形外科 准教授 高木辰哉先生

演題：がんの運動器診療ーがん口コモとその対策ー

## 8. 緩和ケア研修会 集合研修

会場：亀田総合病院 Kタワー13階ホライゾンホール

日時：2020年4月4日(土)9:00～17:30

※時間帯は変更になる可能性もございますのでご了承下さい

※事前にeラーニングの受講が必要となります。お申込時にはeラーニング修了時に発行される「eラーニング修了証書」が必要になります

## 9. 第12回房総がんケアフォーラム

会場：亀田総合病院 Kタワー13階ホライゾンホール

日時：2020年3月28日(土)13:30～16:30予定

講師：NPO法人サイモントン療法協会

副理事長 田村祐樹先生

演題：未定

※詳細についてはご案内チラシをご参照下さい